

新カリキュラムに対応した学生による授業評価作成の試み

小田 梓, 大森 肇, 坂本昭裕, 小俣幸嗣, 平山素子

Development of Class Evaluations by Students for new Curriculum

Azusa ODA, Hajime OHMORI, Akihiro SAKAMOTO,
Koji KOMATA, Motoko HIRAYAMA

1. はじめに

体育センターでは、平成 21 年度より「知の競争時代における大学体育モデルの再構築に関する実践研究」（通称 SPERT プロジェクト）に取り組んでいる。この中で、新しい大学体育カリキュラムについて検討を重ね、平成 23 年度より新構想に基づくカリキュラム（以下、新カリキュラム）を試行的に実施することとなった。本報告は、新カリキュラムの評価の一環として、SPERT プロジェクトグループ 3（以下、G3）が行っている研究活動の一つである「学生による授業評価」作成の試みをまとめたものである。

2. 調査票の作成

体育センター SPERT プロジェクト G3 授業評価ワーキンググループでは、以下のような手続きで調査票を作成した。

なお、調査票作成過程の詳細を表 1 に示す。

2.1. 調査項目の収集

調査項目は主に、a. 大学体育の自己点検・自己評価ハンドブック、b. 筑波大学卒業生に対する共通科目「体育」に関するアンケート、

表 1 調査票作成過程

日程	枠組み	主な内容
2010/10/20	G3WG	項目収集資料の検討
2010/10/27	G3WG	項目の収集
2010/11/10	G3WG	項目の整理・分類
2010/11/17	G3WG	項目の精選、各科目独自項目の追加
2010/11/22	G3 会議	項目の精選
2010/12/1	G3WG	回答法の検討
2010/12/6	G3 会議	調査票案の提示と検討
2010/12/8	G3WG	項目の内容・語句の修正
2010/12/13	G3 会議	調査票修正案の提示と検討
2010/12/15	G3WG	項目の再検討
2011/1/7	正課会議	調査実施のための連絡・調整
2011/1/12	センター会議	調査票案の提示と承認
2011/1/24	G3WG	項目の内容・語句の修正
2011/1/24	G3WG	予備調査実施（学生 20 名）
2011/1/24	G3WG	項目の最終修正
2011/1/27	G3WG	調査票の完成

c. 共通科目「体育」の授業に関する調査（現行の授業評価）、d. 新カリキュラム「筑波体育」の教育目標、の 4 つの資料から収集した。4 つの資料の概要および収集した項目を以下に示す。

a. 大学体育の自己点検・自己評価ハンドブック
大学体育の自己点検・自己評価ハンドブックは、大学体育連合（1993）が作成したものであり、大学体育の自己点検・自己評価の視点と評価すべき項目について述べられている。その後半には、各大学から収集した評価項目の事例集

が掲載されている。本研究ではその中から、授業の計画や運営に関する6項目、指導方法や授業形態に関する11項目、授業の内容や効果に関する17項目、計34項目を資料として用いた。

b. 筑波大学卒業生に対する共通科目「体育」に関するアンケート

筑波大学卒業生に対する共通科目「体育」に関するアンケートは、同 SPERT プロジェクトグループ1（以下、G1）が、これまでの体育センターの教育活動の効果を明らかにするために行ったものである。質問項目は、筑波大学および体育センターにおける「体育」に関する文献5つおよび教員へのヒアリングの内容からキーワードを抽出して作成されている（詳細は、本誌 G1 報告を参照）。本研究では、卒業生に対する調査により得られた有効回答 530 通を因子分析した結果である。授業の内容や効果に関する4因子30項目と授業の運営等に関する10項目、計40項目を資料として用いた。

c. 共通科目「体育」の授業に関する調査

共通科目「体育」の授業に関する調査（以下、現行の授業評価）は、橘ら（2005）によって作成された学生による授業評価である。体育センターの教育活動の評価の一環として2002年度から現在まで毎年実施されている。本研究では、現行の授業評価との比較を可能にするため、現行の授業評価における全ての項目である、授業の運営や指導法に関する8項目、授業の内容や効果に関する8項目、総合的な観点に関する3項目、共通体育全般に関する6項目、計25項目を資料として用いた。

d. 新カリキュラム「筑波体育」の教育目標

新カリキュラム「筑波体育」は、同 SPERT プロジェクトグループ2（以下、G2）が作成し、平成23年度より試行される新しい大学体育カリキュラムの理念と教育目標について定めたものである。教育目標は、1. 健康・体力およびスポーツ技術に関する基礎的知識や思考力、実践力の養成、2. 豊かな心と社会性（コミュニケーション力、リーダーシップ等）の醸成、3.

逞しい精神、高い倫理観の育成、4. スポーツ文化の知的解釈力・鑑賞力の涵養、5. 自立的に自己を成長させ続ける力の涵養、の5つで構成されている。本研究では、教育目標に即した授業評価を作成するため、この5つ教育目標を項目整理の際の資料として用いた。

2.2. 調査項目の作成過程

①項目の整理・分類

まず、資料より収集された項目を、類似した項目は統合し、意味内容が曖昧な項目および本調査の意図とは一致しない項目を削除した。その後、評価内容ごとに、授業の計画や運営に関する項目（14項目）、指導法に関する項目（10項目）、授業の内容や効果に関する項目（29項目）に分類した。さらに、授業の内容や効果に関する項目については、2.1.d に示した新カリキュラム「筑波体育」の5つの教育目標ごとに分類した。

②項目の精選

次に、項目の精選と内容の修正を行った。項目の精選および修正の基準としては、回答者の答えやすさを考慮し、内容が分かりやすく1つの項目に二重の意味を含まない表現にすること。調査時間を考慮し、現行の授業評価同様に調査用紙はB4用紙の表裏に収まる分量にすること。特に授業の内容や効果に関する項目については、授業の目標と効果の整合性をはかるため、教育目標に即して項目の精選と表現の修正を行うこととした。これら一連の作業をWG内外の検討を含めて繰り返し行い、調査項目の精緻化を図った。

③各科目独自項目の追加

加えて、他大学の授業評価を参考に、各科目独自の項目（教員が独自に質問を設定できる項目）の欄を追加した。

④項目の修正と予備調査

さらに、正課体育委員会との調整の上、授業運営上評価が必要な項目を追加し、現行の授業評価との比較を可能にするため項目ごとに再検討を行った。その後、体育センター会議にて評

価票（案）を提案し、得られた意見をもとに修正を行った。

最後に、学生 20 名に対して予備調査を行い、意味内容の分かりにくい項目および回答しづらい項目について最終修正を行った。

2.3. 回答票

それぞれの質問項目についての回答法は、「6. +++、5. ++、4. +、3. -、2. --、1. ---」の 6 件法とした。検討の過程では、中間値を与えて回答をしやすくすることや得点の差を明確にする目的から 5 件法の選択肢も提案された。しかし、現行の授業評価や卒業生に対するアンケートとの比較を可能にすること、6 件法と 5 件法で回答の傾向に大きな差異はみられないという指摘から、最終的に 6 件法を選択した。したがって、回答の範囲は 1～6 で、理論的な中間値（+ - 0）は 3.5 となる。

2.4. 調査票

上記検討の結果、以下の内容ごとに計 42 の質問項目と各科目独自の項目、および自由記述欄が設定された。作成された調査票を資料 1 に示す。

A) 学生の出席状況と熱意（2 項目）

現行の授業評価では、出席状況と熱意が 1 項目であったが、二重の意味を含まない表現にするため、2 項目 [1. 授業への出席状況がよかった。2. 熱意ある態度で授業に取り組んだ。] とした。

B) 共通体育全般について（6 項目）

共通体育全般について、6 項目 [1. 科目選択のオリエンテーション(履修の説明)は役に立った。2. 開設科目の種類・数は適切であった。3. 科目選択の方法は適切であった。4. 今年度の体力測定(体育館、陸上競技場)は役に立った。5. 今年度の全体講義(1 年次; 1 学期, 2 年次; 1 学期および 3 学期, 3・4 年次; 1 学期)は役に立った。6. 「科目選択優先制度」は必要である。] を設定した。なお、現行の授業評価との主な変更点は、項目 2.3. を新設し、全体講義

に関する項目 5. を 3 項目から 1 項目にまとめた点である。

C) 授業の運営と指導法（13 項目）

授業の計画や運営についての 7 項目 [1. 学習目標が明確に示されていた。2. 授業は学生の関心にあったものであった。3. 授業に計画性が見られた。(シラバスを含めて) 4. 授業でとりあげるテーマ内容は精選され、適切であった。5. 授業の流れ・時間配分が適切であった。6. 成績の評価法は公平かつ公正であった。7. 施設や用具は適切であった。]、授業の指導法についての 6 項目 [8. 教員は授業に関わる十分な知識と高度な専門性を備えていた。9. 教員は内容を理解しやすく教えた。10. 教員の授業運営に工夫が感じられた。11. 教員は熱意を持って授業に取り組んだ。12. 教員と学生とのコミュニケーションがあった。13. 学生の体力や技術レベル、理解の程度をいつも考慮して授業が進められた。]、の計 13 項目を設定した。現行の授業評価との主な変更点としては、項目 1. 2. 4. 5. を新設し、その他の項目は表現の修正等を行った。

D) 授業の効果（20 項目）

授業の効果について、新カリキュラムの 5 つの目標ごとに 4 項目ずつ計 20 項目を設定した。目標ごとの項目は、以下の通りである。

目標 1. 健康・体力およびスポーツ技術に関する基礎的知識や思考力 4 項目 [1. 健康・体力の維持増進に役立った。2. 健康・体力に関する知識や方法を理解した。3. スポーツ・運動の技能向上に役立った。4. スポーツ・運動の知識や方法を理解した。]。

目標 2. 豊かな心と社会性(コミュニケーション力、リーダーシップ等)の醸成 4 項目 [5. 学生同士のコミュニケーションがとれた。6. 新しい人間関係ができた。7. リーダーシップや協調性が身についた。8. スポーツ・運動をすることにより、爽快感や喜びが得られた。]。

目標 3. 逞しい精神、高い倫理観の育成 4 項目 [9. 問題解決能力が身についた。10. 新しい課題に取り組む姿勢が身についた。11. 他者

を尊重できるようになった。12. マナーや礼節を身につけることができた。】。

目標 4. スポーツ文化の知的解釈力・鑑賞力の涵養 4 項目 [13. 生涯にわたってスポーツ・運動を実践する必要性を感じた。14. スポーツ・運動を見る日が養われた。15. スポーツ・運動を支援していく価値を理解した。16. スポーツ・運動の文化的・芸術的価値を理解した。】。

目標 5. 自立的に自己を成長させ続ける力の涵養 4 項目 [17. 現代社会におけるスポーツ・運動の意義・価値を理解した。18. スポーツ・運動を環境や社会との関わりの中で捉える力が養われた。19. 自己と向き合い、高めていく力が身についた。20. 物事を意欲的に実践する力が身についた。】。

現行の授業評価との変更点は、項目 6. 7. 9. 10. 11. 18. 20 を新設し、その他の項目は表現の修正、項目の分割を行った点である。

E) 総合的な観点から (1 項目)

総合的な観点から体育の満足度についての 1 項目 [1. 総合的に評価して、私が受けた体育の授業に満足している。] を設定した。

F) 各科目独自の質問 (必要数) および自由記述欄

各科目独自の質問として、授業の運営や指導法と授業の効果について、各教員が任意で設定できる項目の欄を新たに設けた。また自由記述の欄は、現行の授業評価で 3 つに分かれているものを末尾に 1 つにまとめて設定した。

2.5. 本調査票の特徴

今回新たに作成された「学生による授業評価」の特徴は、一つに教育目標に即した授業評価であり、もう一つに教員各自の学習目標に対する評価ができる点である。

まず、教育目標に即した授業評価であるという点について、現行の授業評価は、教育目標に関するキーワードを抽出してあるものの、直接的に目標に対する効果を測定するものではなかった。また、授業の効果に関する項目数も 8

項目と少なかった。それに対して本調査票は、D) 授業の効果についての項目を教育目標ごとに配置したことで、目標に対する効果の測定を可能にした。また項目数も計 20 項目となり、より詳細に授業の効果測定できるようになった。なお、今回設定された 20 項目は、一つの科目で全ての項目の効果測定をねらうということではなく、各科目がどの教育目標に対してより効果を得られるのか、比較検討により科目の特徴を明らかに上でも有用であると考ええる。

次に、教員各自の学習目標に対する評価ができるという点は、今回新たに設定された試みである。これにより、教員各自が立てた学習目標等に対する評価が可能になり、授業の質の向上・改善に役立つ資料となると考える。

おわりに

本報告は、平成 23 年度より試行される新カリキュラムに対応した「学生による授業評価」作成の過程をまとめたものである。今後、本調査を実施し調査用紙の妥当性を検討する必要がある。また SPERT プロジェクトとして、今後現行の授業と新カリキュラムの授業を比較し、効果を検証していく必要があると考える。

付記

本報告は、日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (A) (課題番号 21240060) の一部である。

参考文献

社団法人全国大学体育連合 (1993) : 大学体育の自己点検・自己評価ハンドブック, 社団法人全国大学体育連合.

橋直隆 (2005) : 2002 年度・2003 年度学生による授業評価の報告, 大学体育研究, 27, 77-85.

共通科目「体育」の授業に関する調査

筑波大学体育センター

- 調査の趣旨
1. この調査は、共通体育の授業を一層充実させることを目的として、体育センターが実施するものです。
 2. 記入にあたっては、今年度受講した授業科目全体を統合して、個人の責任と判断で回答して下さい。
 3. この調査が、あなたの成績に影響することは絶対にありません。

- 記入の方法
1. 質問項目のすべてについて、それぞれ該当するもの一つを選び、数字を○で囲んで下さい。
 2. 「-----」は自由記述欄です。

1. 曜・時限 (または集中) 教員の指示するコード番号で答えて下さい
2. 担当教員 教員の指示するコード番号で答えて下さい
3. 授業科目名 教員の指示するコード番号で答えて下さい
4. 希望の科目? 第1希望 → 1
第1希望以外 → 2
5. 学類 (専門学群) 下記のコード表からコード番号で答えて下さい
6. 学年 下記のコード表からコード番号で答えて下さい
7. 性別 男性 → 1
女性 → 2

A1. 学類・専門学群コード表					
1 0	人文	1 8	生物	2 6	社工
1 1	比文	1 9	資源	2 7	情報
1 2	日語	2 0	地球	2 8	創成
1 3	社会	2 1	数学	2 9	知識
1 4	国際	2 2	物理	3 0	医学
1 5	教育	2 3	化学	3 1	看護
1 6	心理	2 4	応理	3 2	医療
1 7	障害	2 5	工シ	3 3	体育
				3 4	芸術
				3 5	その他(大学院等)
				H17以前に存在した学類	
				5 0	自然
				5 1	人間
				5 2	情報
				5 3	工基
				5 4	看護
				5 5	図情
A2. 学年コード表					
1	1年	2	2年	3	3年
4	4年以上	5	大学院	6	その他(研究生聴講生等)

A. あなた自身について

	とても +++	++	+	-	--	まったく ---
1. 授業への出席状況がよかった。	6	5	4	3	2	1
2. 熱意ある態度で授業に取り組んだ。	6	5	4	3	2	1

B. 共通体育全般について

	とても +++	++	+	-	--	まったく ---
1. 科目選択のオリエンテーション（履修の説明）は役に立った。	6	5	4	3	2	1
2. 開設科目の種類・数は適切であった。	6	5	4	3	2	1
3. 科目選択の方法は適切であった。	6	5	4	3	2	1
4. 今年度の体力測定（体育館、陸上競技場）は役に立った。	6	5	4	3	2	1
5. 今年度の全体講義（1年次:1学期、2年次:1学期および3学期、3・4年次:1学期）は役に立った。	6	5	4	3	2	1
6. 「科目選択優先制度 ^{※1} 」は必要である。	6	5	4	3	2	1

※1 「科目選択優先権制度」とは、1年次の体育で抽選に外れ第2希望以下の種目を選択することになった学生に対し、2年次で第1希望の種目を優先的に選択できる権利を保障する制度です。

C. 授業の運営や指導法について

	とても +++	++	+	-	--	まったく ---
○ 授業の計画や運営について						
1. 学習目標が明確に示されていた。	6	5	4	3	2	1
2. 授業は学生の関心にあったものであった。	6	5	4	3	2	1
3. 授業に計画性が見られた。（シラバスを含めて）	6	5	4	3	2	1
4. 授業でとりあげるテーマ内容は精選され、適切であった。	6	5	4	3	2	1
5. 授業の流れ・時間配分が適切であった。	6	5	4	3	2	1
6. 成績の評価法は公平かつ公正であった。	6	5	4	3	2	1
7. 施設や用具は適切であった。	6	5	4	3	2	1
○ 授業の指導法について						
8. 教員は授業に関わる十分な知識と高度な専門性を備えていた。	6	5	4	3	2	1
9. 教員は内容を理解しやすく教えた。	6	5	4	3	2	1
10. 教員の授業運営に工夫が感じられた。	6	5	4	3	2	1
11. 教員は熱意を持って授業に取り組んだ。	6	5	4	3	2	1
12. 教員と学生とのコミュニケーションがあった。	6	5	4	3	2	1
13. 学生の体力や技術レベル、理解の程度をいつも考慮して授業が進められた。	6	5	4	3	2	1

→ 裏面に続く

D. 授業の効果について

	とても +++	++	+	-	--	まったく ---
1. 健康・体力の維持増進に役立った。	6	5	4	3	2	1
2. 健康・体力に関する知識や方法を理解した。	6	5	4	3	2	1
3. スポーツ・運動の技能向上に役立った。	6	5	4	3	2	1
4. スポーツ・運動の知識や方法を理解した。	6	5	4	3	2	1
5. 学生同士のコミュニケーションがとれた。	6	5	4	3	2	1
6. 新しい人間関係ができた。	6	5	4	3	2	1
7. リーダーシップや協調性が身についた。	6	5	4	3	2	1
8. スポーツ・運動をすることにより、爽快感や喜びが得られた。	6	5	4	3	2	1
9. 問題解決能力が身についた。	6	5	4	3	2	1
10. 新しい課題に取り組む姿勢が身についた。	6	5	4	3	2	1
11. 他者を尊重できるようになった。	6	5	4	3	2	1
12. マナーや礼節を身につけることができた。	6	5	4	3	2	1
13. 生涯にわたってスポーツ・運動を実践する必要性を感じた。	6	5	4	3	2	1
14. スポーツ・運動を見る目が養われた。	6	5	4	3	2	1
15. スポーツ・運動を支援していく価値を理解した。	6	5	4	3	2	1
16. スポーツ・運動の文化的・芸術的価値を理解した。	6	5	4	3	2	1
17. 現代社会におけるスポーツ・運動の意義・価値を理解した。	6	5	4	3	2	1
18. スポーツ・運動を環境や社会との関わりの中で捉える力が養われた。	6	5	4	3	2	1
19. 自己と向き合い、高めていく力が身についた。	6	5	4	3	2	1
20. 物事を意欲的に実践する力が身についた。	6	5	4	3	2	1

E. 総合的な観点から

	とても +++	++	+	-	--	まったく ---
1. 総合的に評価して、私が受けた体育の授業に満足している。	6	5	4	3	2	1

F. 各科目独自の質問

○ 以下の欄には授業の運営や指導法について、各教員が任意で項目を設定してください。

	とても +++	++	+	-	--	まったく ---
1.	6	5	4	3	2	1
2.	6	5	4	3	2	1
3.	6	5	4	3	2	1

○ 以下の欄には授業の効果について、各教員が任意で項目を設定してください。

	とても +++	++	+	-	--	まったく ---
4.	6	5	4	3	2	1
5.	6	5	4	3	2	1
6.	6	5	4	3	2	1

○ 共通体育にかかわる希望や意見などがありましたら、自由に書いて下さい。

本調査の回収方法

- ・ 授業時間内に記入、終了時に所定の袋にて回収します。
- ・ その後、代表者（学生）が袋に封をして、全員の調査用紙を体育センター事務室に届けて下さい。
- ・ 体育センターのスタッフ（準研究員等）がいる場合は、そのスタッフに封をした袋を預けても結構です。